

令和 7 年度第 2 回  
品川区総合教育会議

会議録

とき 令和 7 年 1 月 29 日

## 令和7年度第2回品川区総合教育会議

日時 令和7年12月9日（火） 開会：午後4時00分

場所 品川区役所 本庁舎5階 第五委員会室

出席者	区長	森澤 恭子
	教育委員会 教育長	伊崎 みゆき
	同 教育長職務代理者	吉村 潔
	同 委員	稻垣 百合恵
	同 委員	濱松 誠
	同 委員	吉原 幸子

出席理事者	区長室長	柏原 敦
	総務課長	藤村 信介
	教育委員会事務局 教育次長	米田 博
	同 庶務課長	船木 秀樹
	同 学校施設担当課長	荒木 孝太
	同 学務課長	石井 健太郎
	同 指導課長	酒川 敬史
	同 教育総合支援センター長	丸谷 大輔
	同 教育施策推進担当課長	唐澤 好彦
	同 特別支援教育担当課長	新井 正康
	同 品川図書館長	三ツ橋 悅子

傍聴人数 なし

### 次第

1. 開 会
2. あいさつ 品川区長、教育長
3. 意見交換
  - 【テーマ】区が目指す今後の学校支援について
    - (1) 教育委員会委員からの協議事項について
    - (2) 次回の総合教育会議に向けて
  - 4. その他
  - 5. 閉 会

区長室長	<p>定刻となりましたので、令和7年度第2回品川区総合教育会議を始めさせていただきます。この品川区総合教育会議は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第1条の4に基づき、区長と教育委員会が十分な意思疎通を図り、品川区の教育の課題等について協議・調整を行うことにより、相互の連携をさらに強化することを目的として開催するものであります。</p> <p>なお、本日、傍聴の方はいらっしゃいません。本日の会議におきましては記録用にカメラ撮影をさせていただきます。</p> <p>それでは開会にあたりまして、区長のご挨拶をお願いいたします。</p>
区長	<p>本日はお忙しいところ、今年度第2回目の総合教育会議にご参集をいただきましてありがとうございます。</p> <p>本日の総合教育会議におきましては、「区が目指す今後の学校支援について」というテーマで教育委員の皆様からお話をいただき、それぞれ意見交換ができればと思っております。</p> <p>教育は様々な状況にある子どもたちが将来に向けて夢を描き、自分らしく生きていくための礎となるものと考えています。品川区では、すべての子どもたちが等しく学習や体験活動の機会を持ち、家庭環境に関わらず様々な選択肢が持てるよう、他の自治体に先駆けて、給食費や補助教材の無償化を進めたほか、今年度から標準服の無償化や、小学校への「朝の居場所」の設置などを行っています。</p> <p>本日の意見交換を通じまして、区の教育の質がより向上すること、よりよい学校づくりの一助となるよう、忌憚のない議論ができればと思いますので、どうぞよろしくお願ひいたします。</p>
区長室長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは続きまして、教育委員会を代表して、伊崎教育長からご挨拶をお願いいたします。</p>
教育長	<p>本日は、総合教育会議にご出席いただきありがとうございます。品川区の教育の充実、発展に向けて、区長、教育委員の皆様が一堂に会して、重要な教育課題について議論をする貴重な機会をいただきましたことに心より感謝申し上げます。</p> <p>品川区では、品川区教育振興基本計画で、子どもたちの笑顔でつながる共生社会～みんなのウェルビーイングをめざして～というビジョンを定めて、個人と社会のウェルビーイングを実現するための子どもの資質、能力の育成を進めています。</p> <p>本日の総合教育会議では、このビジョンを基軸としながら、現在の教育の現場が直面している様々な課題について、皆様からご意見やご議論をしていただきたいとお願いを申し上げます。教育委員会で常にいつも活発なご議論をしていただいているので、同様に多角的な意見と、区長部局と教育委員会の綿密な連携があつてこそ、品川区の教育が一層発展していくものと考えています。本日の協議が品川区の教育の未来に向けた有意義で実りのあるものとなりますよう、どうぞよろしくお願ひいたします。</p>
区長室長	<p>ありがとうございました。申し遅れました。本日進行を務めます、区長室長の柏原でございます。よろしくお願ひいたします。</p> <p>資料のほうは、皆さんのパソコン等のお手元にございますでしょうか。</p> <p>それでは次第に沿いまして、進めてまいりたいと思います。</p> <p>次第の項番3番になります。意見交換ということで、まず(1)の教育委員会委員の方から協議事項ということで、本日の総合教育会議は各教育委員の方々が日頃から感じておられる学校教育を取り巻く環境や課題についてご発言いただきまして、自由に意見を交換し合う場ということで、より一層の教育施策の向上や課題解決につなげていければというふうに考えております。</p> <p>意見交換の流れでございますけれども、まず教育委員の方から「区が目指す今後の学校支援について」をテーマに5分程度お話しいただきまして、その後、10分程度、意見交換という流れで進めていきたいと思います。4名の方がそれぞれお話しいただきながらということで進めていきたいと思います。順番でございますが、こちらのほうで指定させていただきまして、吉村委員、稻垣委員、濱松委員、吉原委員という順番で進めさせていただければと思いますので、よろしくお願ひいたします。</p>

	それでは早速入っていきたいと思います。まず、吉村委員からご発言をお願いできますでしょうか。
吉村委員	<p>本日は貴重なお時間をありがとうございます。</p> <p>区の今後の教育に向けてということなんですが、私は品川区の教育委員会でお仕事をしていますし、他の教育委員会でも仕事しました。それから、色々な自治体で校長もやらせていただきました。教員もやっております。そういう中で、久しぶりに品川に戻ってきて思うのは、品川区は非常に教育に対する理解があって、何よりも色々な予算をつけていただいて、これは本当に声を大にして言いたいんですけど、他の自治体とは違う。このことには改めて感謝申し上げたいと思っています。</p> <p>例えば、区の固有教員であるとか、それから各種支援員。これらの質、量。これは他の自治体、23区の中でも負けないと思うんですね。ですから今、ウェルビーイングということで様々な施策を打っていますけど、やはり子どものウェルビーイングのためには、教師が仕事に対する満足度を持って、やりがいを持ってということが一番大事になるわけで、そういう部分においては、この区の固有教員であるとか、各種支援員、ここにきちんと予算をつけていただいて、教育を開拓できるというのは、これはもう本当にありがたいことで、今後もさらに充実ということで考えていただければというふうに思っています。</p> <p>課題として言うと、品川の教員の場合ではないんですが、教員の本分って授業だと思うんですけど、授業が本分なので、日本の教員は授業の負担が多いとよくマスコミでも言いますけど、でも実際、諸外国のデータと比べてみても、授業にかける割合、時間というのは、あんまり変わってないんですね。外国と日本。むしろ中学校なんか少ない。何が負担になっているかというと、1つは事務的なことなんです。学校の教員が事務的なことを非常に多くやっている。それから、これは悪いことではないと思うんですけど、学校経営に関わる仕事も結構やっている。その事務的なことについて、何とか手立てを打てないかということが1つ、日頃から思っていることです。</p> <p>それからもう1つは、今、学校の校長先生とか教員と話をしていると、学校のその守備範囲というか、学校が請け負う範囲が非常に拡大してしまっていて、本来だったら家庭の教育力、本来だったら地域の教育力、こういうところで基本的なことをやっておくべきことが今、学校に回ってきていて、それに学校が追われている。そういう状況があるというのを感じますし、私も現場にいましたけど感じていました。すごく難しいことだと思うんですけど、義務教育というよりも、0歳から15歳までの間の学校の役割、あるいは幼稚園や保育所の役割、それと家庭の役割、それから地域の役割。これらの役割について、今後やっぱり区からも発信していく、こういう部分は品川区では家庭の役割として考えていますよ、というようなことをやっていかないと、色々な働き方改革の対処療法的なことをやっていても、この点を改善されていかないとなかなか難しいのかなというのが、私が日頃思っていることです。</p> <p>ですから、具体的なことを言うと、教員の事務的なことを何とかできないか。もう1つは、家庭の役割、学校の役割、地域の役割。これをもう少し区行政として発信していくいかないか。こんなことを考えています。以上です。</p>
区長	<p>ありがとうございます。</p> <p>最初に固有教員、支援員。ここは本当に多様なお子さんがいる中で、支援をする人材を置いていくこと、これが重要だと思っていて、それは学校、先生たち一人ひとりの負担を軽減するということもそうですが、子どもたちにとって一人ひとりをしっかりとフォローできるというのがすごく大事だと思うので、引き続きこれは大事にしていきたいなと思っています。</p> <p>2つあって、事務負担のところで言うと、サポートスタッフであるとか、様々な人材を置いているわけですけれども、もっとこのあたりがというのが具体的にあれば、もしあ気づきの点があればというところと、もう1つは、児童の職員と話をしている中で教育虐待があるというような話があったんですね。そういう意味では、親の支援とかをまさに話していて、家庭の役割をどう果たしていってもらうのか、知つてもらうのかみたいなところ、どこのタイミングでどういう家庭の役割があるとか、親の役割があるみたい</p>

	なところを知ってもらったりとか、どう一緒に取り組んでいけばいいのかみたいなところ、もし、これまでのご経験の中で感じるところがあれば是非教えていただきたいです。
吉村委員	<p>1点目の事務負担の件なんですけど、確かにスクールサポートスタッフとか、色々な事務の軽減を図るための手立てがあるんですけど、スクールサポートスタッフってすごくいいんですけど、人によるというところがあるので、どこまでその人が事務的なことを、例えばエクセルを使って処理できるとか、そういうのは人によってちょっと異なるので、必ずしもSSSが入っているから事務軽減がされているかどうかというのはちょっと、学校や人によって違うところがあるのでそこは難しい。</p> <p>また、学校の事務職員について、もう随分前から事務職員の業務については色々な話題があって、本来は事務職員がやるべきことを教員が担っていないかということがあります。でもあんまりそこは変わってきていないというのがあるんですね。だから事務職員も含めて学校の事務を、これは教員がやること、これは教員じゃなくてもできること、というのを1つ考えていくのは大事なことだなというのが現状ですね。</p> <p>それから2点目の話なんですけど、これはもう今、家庭支援センターとか児相とか、こととの連携は欠かせない。学校はしおりゅう連携しています。それぐらいに学校ではもう限界があって、家庭の問題にどこまで学校が入るかというところ、家庭支援センターあるいは児相の職員と会議を持って、対応していくということなんですけど。実際、小学校とか中学校に入ってきてから対応するというのはなかなか手遅れって言ったら申し訳ないんですけど、かなり難しい状況になっています。だからもっと、先ほど0歳からと言ったのもそういう意味で、学校に上がってくる前の子育ての部分。あるいは福祉の部分。この部分が連携して、親に対するアプローチができないもんどうか。というのは思っています。ただし、本当に話したい家庭、保護者の方にそのことを伝えていくということがなかなか難しいと実際は思います。じゃあこういう機会で集まつてくださいと言っても、なかなか集まれるのが現状だと思うので、そのあたり、どのようなアイディアを出していけるかということなのかなと。</p>
区長	学校の現場の業務改善で例えば、区役所のデジタル化に向けて、品川区の場合は新庁舎に向けて、様々な業務のプロセスを見直していくこうみたいなことをやっていて、それはそういう外部の人を見てもらって進めていますが、教育現場ってそういうものがありするんですか。
指導課長	実際今、品川区はとても学校現場への支援が手厚いという話がありましたけど、私はよそから来ているので、ひしひしとそれは感じていて、品川区の先生たちはある意味、そういうった資源投入をしてもらって、幸せだろうなと思っていますし、私も感謝をしています。そういうった教育委員会から与えられる資源を活用しながら、学校の中でも会議はどうするかとか、行事1個1個をどうやって行ったらより負担を軽く、もしくは効率的にできるかとか、授業研究のあり方ももう少し軽くできないか。学校ごとに、学校規模に応じて努力している部分も大きいというふうに思っています。ただいざれにしても、やるぞっていう旗振りがなければ、なかなか進まないというのは何事もそうですが、そういうった実態によって学校ごとに差はあります。
吉村委員	多分、教育に関わる業務改善でやるんですよ、校長は。アンケート調査も、副校長とか教育の中身がわかっている人じゃないとできない調査もあれば、そうでないものもある。そのへんを事務職も含めてどうするかというのはあると思います。
指導課長	あとは各種帳票といいますか、通知表など、それから特別支援教育に関わる個別の指導計画など様々なものがあって、それも事務に含まれる。一方、調査については昔に比べると、デジタル化が進んで、量は減ってないにしてもやり方は軽くなっているのではないかとは思います。
区長	本気でそこを削減していこうとなると、一体何がそれだけ取られているのか、実態調査などをしないとわからないということですかね。
吉村委員	本当はしたいところですけど、学校って何でも調査が入っちゃう。それがまた負担になっちゃう。校長からヒアリングでもよいのかなと思います。
教育長	事務の業務分担、都と区の会計年度職員の業務の見直しについてはどうでしょうか。

吉村委員	都と区の会計年度職員の方が品川にはいらっしゃると思うので、まずその2人でどうやっていくかというのもあるんですけど、区として、例えば区の会計年度職員の方にはどんな業務があるか。昔やったんですよね、そういう見直しを。でもそれは結構反発があって、事務職員の方から。なかなか実現できなかった。
稻垣委員	校長先生と話している中で、子どもの名前のリストがちゃんとしていないと。転入してきた時のデータとかも、副校长の頭の中にしかないみたいなことを言っていて、例えば区内の子どもの学校に入った時に学籍番号を全部振るとか、そういう番号が振られていないので、同姓同名がどっちかわからない、データ上の子どものデータが整理されていないというのをすごいおっしゃっていて、そのへんはどうなのかなというのがあります。データが整備されていないから、事務の方も請求する時にすごく大変で、学校側も管理がすごい大変とおっしゃっていました。
学務課長	通常、いわゆる学事システムというものを用いて管理している場合については、住基と連携をしていて、そのままで入ってくるような形です。なので、地域センターなどで転出の手続きをすると、そのまま住基の端末から出てくるようなものだったりするので、あとは学校の先生たちが使っているのは学事システム以外にも、校務システムもあるんですけども、それも同じようなデータを引っ張ってくるので、今逆にお話としてその名簿が曖昧ということについてはすいません、そういう実感はなかったです。
稻垣委員	名簿で時々字が間違っていたりとか、そういうことで、データとして使うのが大変だというので、高校とかだと入学した瞬間に全部番号が振られるんですよね。学校ごとにそういった番号があると、もうちょっと管理は楽なのかなという気はちょっとしながら。特に外字、普通に出ない文字の方とかもいて、結構このデータとして扱うのはすごく大変だなど。
区長室長	一旦ここで区切らせいただきます。 では続きまして、稻垣委員、お願いいいたします。
稻垣委員	色々なサポートが入っていて、私は保護者でもあるので、保護者の立場としても無償化も色々していただいているし、子どもに向けてのサポートもあって、すごく温かいと思っています。 PTAをしていることもあって、学校にしおちゅう行くんですけど、やはり学校を見ていると、クラスの運営がすごく困難になっているのも毎回見ていて、現状、保護者の方の意向などもあって、いわゆる普通級に支援の必要なお子さんがだいたい1人はいるという状況で、発達障害の診断のレベルの子もいれば、グレーゾーンな子もいて、グラデーションだとは思うんですけど、普通級に入ってしまうとどうしてもその子って、適切な支援が受けられずに、みんなと一緒に授業を受けなければいけない、やりたくないこともやらなきやいけないということになってしまっていて。何よりその子自身が苦手なことを無理やりやらされていることでストレスを感じたりとか、毎日怒られてしまったり注意されたりということで、自己肯定感も下がるし、二次障害の危険性もあるのですごく良くない状況で、適切な支援を適切な時期に受けられれば、二次障害も防止できるのになっていうのは常々思っているところです。一方、先生はその子も含めた30人以上の学級を1人で見ている状態なんですね。その状況でその子に支援するのはまず難しいですし、その子に何かトラブルが起きている間はその子にかかっていると、残りの29人、30人以上の子たちが待たされる、放置されている状態になるような状況があって、本来であればやれるはずの学びが得られない状況になっているかなと思います。でも一人ひとりに寄り添うってすごく大事なことで、その言葉ってだいたい支援が必要な子に向かいがちなんですけれど、その横で我慢している子たちにもやっぱり一人ひとりにちゃんと寄り添わなきやいけないなというのは常々思っているところです。暴力があったりとか、授業を受ける権利を妨害させられたりとかそういう状況で最近増えているのは、やっぱりそういう声が届かないから学校に行けないということで不登校になるお子さんもいるし、あと先生がその子を怒る声が怖くて学校に行けないということもあって、繊細な子たちはそれで結構不登校になるということは、むしろ知っている子でも何人かいいる状況が続いている。ただ、それはそれとして、先生が授業の中で、触れ合っている中で、この子はちょっと支援が必要だろうなと思ったとしても、

それを保護者に伝えた時に、保護者の方からクレームになってしまって、教育委員会に報告みたいなことになってしまうので、先生が気付いたとしても、それを伝えられない状況が、現場を見ていて本当に良くない状況だと思うので、これを何とか改善できればということで今考えているんですけれども。

一つとしては、発達障害、いわゆる支援が必要なお子さんへの支援の方法を全ての教員が学ぶべきじゃないかなと思っています。発達障害のある方へのスキルって、言葉がけとか環境設定があるんですけど、それは特別なものではなくて、全てのお子さんにとってわかりやすくなるとか、先の見通しが立てられるとかで非常に有用なことが多いスキルなんですね。教員にその知識や適切に環境設定ができていれば、特性があるお子さんでも落ち着いて過ごせるようになったり、そもそも日常のトラブルが減って、クラスも落ち着き、そうすると他の子たちも落ち着きという形で、クラスの運営がしやすくなるというのが一つです。

あともう一つは、さっきも申し上げたとおり、普通級にいるお子さんは、その子に支援が必要なことを認められない保護者の方が多いんですけども、私が支援者向けの講座に出た時に講師がおっしゃっていたのは、保護者も本人も気付かないうちに必要な支援をすべて学校側がしていて、気付かないうちにその子が生きるためのスキルを身につけて、支援されたことに気付かないまま普通に卒業していくのが理想ですとおっしゃっていて、なので、環境をすべて整えてあげることと対応の仕方でその子がやりやすい、こうしたら上手くいくというところが親が気付かないうちに学んでいれば、そこで身につけることができれば、本当に特性が強いお子さんの場合はそこまでは難しいんですけど、グレーゾーンぐらいの子だったら、大体成長に合わせて必要な支援をしておけば、小学校卒業と同時に支援が必要なくなることも多いような状況なので、それはできるんじゃないかなと思っています。

その知識があるだけで教員の方もイライラしないんですよ。私も保護者として見てもイライラしなくなる。この子はそういう特性だから、大人を困らせようと思ってやっているんじゃないとか、あと元々苦手だから、わざとやらないわけじゃない。そういうことが大人がわかると許せるというか、広い目で見られるようになるので、そういう形で大人の方もストレスを抱えなくて済むようになる状況があるかなと思います。

あともう一つは、以前小学校を訪問した時に、ある校長先生がおっしゃっていたのは、支援教室の先生が時間がある時に全ての教室をめぐって、そのクラスにいるちょっと支援が必要そうだな、対応が必要そうだなというお子さんにチェックをつけていくって、そのお子さんにはこういう支援が必要だと思います、というリストを担任の先生に渡していると。そのリストがあることで、担任の先生が対応しやすくなって、すごく良い状態ですというお話だったんですね。ただその時は支援教室の先生も足りなくなってしまって今はできていないですっておっしゃっていたんですけど、でもそういう形で専門家まではいかなくとも、とにかくわかる方が見て、この子にはこういう支援をしてあげてほしいという、そこを見てあげて、担任の先生に共有し、しかもその共有した後に、その担任がその子に対する対応に困った時に相談に乗れるような関係性があると、1人で対応するよりも全然教員の方のメンタルの負荷もなくなるんじゃないかなと思います。

それに合わせて、特別支援の先生もそんなにたくさんいるわけではないですし、そういう意味ではN P Oの方とかも含めて、そういう支援、理解のある方が、教員はとにかく足りないのでしょうがないので、そういう外部の方に入っていただいて、見ていただいて、支援の方法などを一緒に考えてあげる。もう、親が申請していなかったとしても学校側が必要な支援を与えるという姿勢になったほうがいいんじゃないかなと思います。授業の様子を見ていると、授業が始まっていても教科書を開けない、どこのページかわからっていないとか、1人でふらふらと出でていっちゃう子とか、別に教員免許は必要ないと思うので、そういうところを見守って、もうちょっと声をかけてサポートできるような方がいてくれるといいなと思います。

あと教員のメンタルの面でいうと少し離れたんですけども、とにかく、私の友達の先生も毎日のように教室から脱走する子を毎日追っかけていっていると言っていて、あ

	<p>る日、鬱になって行けなくなってしまったんですね。あと、注意した時に子どもの暴力を受けて、それ以降怖くて、子どもを注意できなくなってしまったという先生もいたりとかもしして、いじめまではいかないけど、子どもたちのトラブルで対応していた保護者にすごく強く言われてしまって、もうそれで怖くなってしまって、休職になるというのもあるので、1人の先生が相手に対して1人で対面するのはすごく危険だなと思っていて、できれば学年全体でチーム担任制までいかないにしても、担任と副担任、関わる先生みんなでチームになって、学年の先生で子どもや保護者にも対応するというグループで対応できると、1人で全部受けなくて、例えば得意な人が、それに知識がある人が対応するとかそういうこともできるようになるので、チーム担任制というのも、その先生の負荷を減らす1つじゃないかなというようなことを思っていたりもしています。何回か先生と話していて、子どもの入学式とか学校の授業参観とかも全然行けてないんですけどおっしゃる先生がすごく多くて、そういうチーム担任だったら、先生が1人抜けても何とかなるみたいなところもあるので、そういうことを考えても、チームでみんなで頑張ろうというのが作れると本当はいいんじゃないかなと思います。</p> <p>ただ、色々申し上げたんですけど、とにかく学校の現場の負担はとにかく増やしたくなくて、講習に関しても、数日聞けば全体が楽になるからという提案なので、とにかく現場に人が足りないので、教員がすぐには増えないので、教員以外の人が何かしら入って助けていくみたいなことを、政治のほうから考えていただくのはいいんじゃないかなと。すいません、長になりましたが、以上になります。</p>
区長	発達障害の支援員は入っているんですよね。
特別支援教育担当課長	小学校の前期課程については発達障害の支援ということで入っていまして、担任の先生が授業に集中できるように、飛び出しなど、お子さんが出てしまう時には支援員が動いているところあります。
区長	先生たちは研修などでやるんですよね、発達障害のお子さんとの接し方について。
教育総合支援センター長	教員研修はセンターでやっています。今、特支のコーディネーターや担任、コアに関わる方が中心に受けているんですけども、全ての先生についてるのはおっしゃるとおりかなと思います。学校からもリクエストがあって、指導主事が学校に行って、教員向けの研修もついこの間も行っていますので、お声がけいただければ、学校に出向いて指導主事がやることも可能です。
稻垣委員	全ての教員がある程度対応の仕方を学んでいくことが大事だと感じています。
指導課長	だいぶ進んでいると思いますし、どんな保護者かとか、どんなケースかによっては管理職が入ってやるというふうになりますので、危ない案件を1人で対応させるのは余計な炎上を招くことになります。
稻垣委員	できればもう完全にチームにしてしまって、クラス担任ではなくて、月曜日はこの先生、火曜日はこの先生みたいな感じでローテーションができると、子どものほうも合う先生と合わない先生がいるので、今来ているこの先生にはちょっと相談できないけど、あの先生になったら相談できるということができるようになったりするので、チーム担任はあんまり悪い話は聞かないで、良いんじゃないかなと思っています。 やっぱり、教室に大人1人と子どもという状況をなるべく作らないあげたいなっていうのはすごくあって、誰かしら入っていられるような状況が本当は良いんだろうなというふうには思っています。
区長室長	ありがとうございました。 では続きまして、濱松委員のほうからお願ひいたします。
濱松委員	森澤さん、伊崎さん、教育委員の皆さん、事務局の皆さん、現場の皆さん、皆さんのおかげで品川の教育がより良いものになっているというのを感じます。本当にありがとうございます。その上で、森澤さんと話す機会がなかなかありませんので、いくつか提案というか、私案を持ってまいりました。ポイントだけ申し上げます。 さっき森澤さんが冒頭言われたように、やはり無償化というもの、それから無償化というものじゃなくて、子どもや親、家族のこと、それ以外も含めて考えると、すばらしい打出だったと思います。 その上で、無償化の次、アップデートをどんどんしていかないといけないというところ

がまず大きな前提。

2つ目が、この支援は学校に手厚くされているとは言え、なり手が少なくなる、大変だ、もっと何とかしてくれ、民間みたいに給料がどんどんどんどん上がるものだったらいけども、人材の流動化で入ってくるどころか出ていく人が多いよね、というのは私は民間出身ですけども避けられません。なので民間の経験からできる限り申し上げたいなと思っています。WHYのところがあるんですけど、時間の関係でWHAT、メニューも用意してきたので、約10個程度あります、すいません。

1個目の不登校。アップデートしていかないといけない子ども支援のアップデートで、不登校、いじめ、放課後というところがある中で、不登校はちょっと後での話ですので飛ばします。

2つ目、いじめの話なんんですけど、ここは話したいなと思ったらまさにセンターの皆さんたちがやっておられるHEARTS。これは素晴らしいアイディアなんですが、学校現場、野口校長含めて話を聞いて、何度も聞いてみると、理想を求めるともちろん際限がないので、そこは最後に意思決定をトップでやっていただいたらいいと思うんですけど、やっぱりちょっと遠すぎると。ここに連絡すればいいんだよ。わかってる。だけどなかなかそんなことを言うと、だから巡回やもうちょっとHEARTSの増員というのをやっていただけだと。教育の質を上げろ上げろ、いじめも何とか対応しろ、HEARTSがあるじゃん、でもそれもやられようとしているのではないかというところも聞いておりますので、まだわからないですよ。なのでそこをもうちょっとあると嬉しいというところがいじめです。

次、放課後のアップデートをやったほうがいいと思っていて、まさにこれは森澤さんが呼んでくださった、NPO法人アフタースクールさんみたいなことが、彼らと一緒にやるかは置いておいて、一緒にやるといいと。これも、子ども未来部のところでやるのか、教育委員会でやるのかというものがわかったとしても、なんで私がこれを改めてあの時に聞いてアッと思ったかと言うと、現場の先生や校長先生と話していく、探究を授業内でやれと言われますと。待てよと。そりやそうだ、教員頑張れ、そうだ、親も頑張って何とかしようと思って。でも放課後ってすごい時間あるんじゃないかと思ったんですね。3時から6時まで、4時から7時まで、そこにプロフェッショナルの人たちの力を借りてやると。もちろん参加できる人とできない人がいると思うんですけど、そこってすごく可能性があるなと思ったんですね。私は以前の総合教育会議に呼んでいただいて、すごく面白いって目からうろこだった。

あと支援室を用意しますだけじゃなくて、やっぱり大事なのはその次。質のところが今求められると思うので、そこが大事だと思っています。

専門職の拡充は23区と比べると、やっぱり他を経験している人からしたら、めちゃめちゃやってるやんと、またやったら学校をある種甘やかすんじゃないのみたいな、もうこれ以上やるのは際限ないよって話はあるんですけど、それを言っちゃうと、無償化やり過ぎじゃないの、丸々ってやり過ぎじゃない問題があると思うから、私はこんなに支援というか、これだけやることがこの品川区から始まった標準なんだ、やり過ぎじゃないんですという、無償化その他で森澤さんが示された埠は1つそれがあるんじゃないけど。それでウェルビーイングを高めていく。そのウェルビーイングが子どものウェルビーイングだけじゃなくて、教職員のウェルビーイングのアップデートもやっていかないといけないと思うんです。そうなった時に、また濱松は支援の増加ばっかり話していて、何度も話しているじゃないかという議論になるんで、やっぱり意思決定者、じゃあ支援はしたけど、学校は良くなつた？教育や学習の教育現場が良くなつた？って話に絶対なってきますので、その時にやはり校長のリーダーシップの話になりますから、それこそ兵庫教育大学の大学院とか、その他の東京都や国のニーズとか、色々やられていますけど、それだけでは足りません。とはいって、まだ民間の思想、民間の思想って言っちゃうとこれがゼロサムになっちゃいますから、いくつかのメニューをしっかり用意して、品川区教育委員会はその学校現場の人、教育委員会事務局のリーダーとなる人にどんどん行って来いと。どんどん行ってください。外部にどんどん行って、刺激を受けて戻ってきてください。本当はセットで外部の採用、時には校長だったり、時には副校

	<p>長だったりという人に外部に入ってきてもらったほうがいいと思いますが、アレルギーが大きいというのはやはり知っていますので、無理にとは言いません。ただ、それをするならば、どんどん研修に行って来いと。それをさらに生かせるような勉強の文化を校長が作ってください、というのを教育長や区長が言っていただければなというふうに思います。</p> <p>あとウェルビーイング調査、これ私だけじゃなくて教育委員会、我々の作戦会議の中でもなんとか提案して、ウェルビーイングというキーワードはすごくいいと。学力調査ってすごく大事で、この数値としては、そうだそうだ。なるほど。参考にしようと。低い時もあれば、高い時もある。でもそれだけじゃないよね、指標は。じゃあウェルビーイングの調査はなんだってなると思うんです。それを入れたらいいの一言で終わりなんですよ。そんなにお金もかからない、なんだけど指導課長や皆さんと少しだけ話したんですが、ポイントがあるなと思うのは2つあって、1個は、1年に1回にしちゃうと、校長やリーダーからしたら、「はい、じゃあ次の年良くしようなあ、あ、先生変わってるわ。校長も変わっちゃった。」になるので、学期ごと、年3回、そうすると1学期にやったことって忙しさもあってあんまりじやんってなって、それが支援者・伴奏者がなんで忙しかったんですかということを聞けるので、2学期3学期に生かしましょうってできるから、学期ごとにしたらいいと思います。</p> <p>それが1個の提案で、2つ目は、ウェルビーイング調査って、子どもをベースに考えていましたと思うんですけど、大事なのは教職員のウェルビーイングも同時に考えないといけないので、教職員も本当は学期ごとに、これは名前がありなしはありますけども、それを改めて見た校長が子どもたちはどう思っているか、教職員がどう思っているかというのを学期ごとにやる。本当はこれは評価に繋げたらいいと思うんですが、アレルギーが起こると思いますし、数十校全てでやるとなると大変だと思いますから、まずはテストでやっていくということが大事。あと伴走の支援については、やはり事務局の人たちだけではいけませんので、本当は外部も入れたらいいと思います。</p> <p>最後、地域のところのアップデート。やはり、コミュニティスクールのアップデートが必要だと思っているんですけど、これをやるにも、例えば官民連携、探究を何々やるって言っても、いつも言われるのは、「濱松さん、大事なんだけど、予算とやる人がいないんだよ」と。この2つはよく言われます。予算はもう頑張ってくださいとしか言えなくて、人の部分がやっぱり本当にそういう人を探ってくるという室を設けないといけないです。</p> <p>これは最後ですけど提案としては、室を3つ設けたらいいと思っています。3つ足りないなと思うのは、1つは、DX推進室を教育委員会に入れるべきだと思います。私は教育委員会と区長部局がちょっと距離があるんじゃないかなと僭越ながら思いますから、やはりそこにも必要だと思います。もう全てがDXに繋がっていて、色々やっていると聞きますけど、業者側にも友人がいるんですが、品川区、ちょっと真ん中か、その前後だと聞われますので、トップを走っていかないといけないと思いますから、それが1個目。</p> <p>2つ目が官民連携推進室。これは例えば、ご存知と思いますけど、兵庫県の姫路市は久保田さんがいらっしゃいますし、あとはカタリバから加藤さんというNo.3の方を呼んでこられて、そこの改革をしていると。そういう外部の人じゃなくても、そして教育委員会事務局に置くか、どこに置くかは置いておいて、官民連携をもっと進めるべきだと。本当は校長のリーダーシップでやったほうがいいと思うんですけど、そこはリーダーシップと並行してやっていったらいいと。</p> <p>最後が育成とか採用の推進室、この3つですね。</p> <p>なので、DX関連、外部との連携、共創系、コ・クリエーションと人。やっぱ育成するにも、事務局の皆さんがあるには、私が偉そうに言うわけじゃなくて、専門じゃないことをやれと言われても、なかなか難しいものがありますので、ここをいかに強化していくかっていうのは、区長や教育長、特に区長しか組織を作っていくっていうところはできないと思いましたので、大事なことじゃないかなと思います。以上です。</p>
区長	ありがとうございます。HEARTSの充実はアウトリーチが必要ということですよね。待つ

	<p>ているだけじゃなくて、もっと中に入つていってほしいみたいなお話を。そういう意味ではスクールカウンセラーを充実していかないととか、そういうことですよね。</p> <p>放課後の充実は確かにそうだなと。私の発想的には習い事的なものというかそういうイメージだったんです。確かに探究学習的なものを進めていく。これも現時点では子ども未来部の話なんですけど、探究学習に繋げていくというのは大事だなと思ったところです。</p> <p>専門職の充実は、支援員とかそういうところですよね。</p>
濱松委員	支援員のほうと、あとはそういう何かスペシャリストとか。
区長	校長先生のリーダーシップっていうのは、今も色々研修とかでやっているんですかね。
教育総合支援センター長	年に1回程度ですけれども、校長向けの研修はありますが、必ずしもマネジメントとかリーダーシップに限ったことではなくて、教育課題について触れたりとか様々なので、学校の力を伸ばしていく意味でのリーダーシップ、そういったものだけをやっているわけではありません。
教育長	やるには、既存の研修を少し整理しないと。
区長	ウェルビーイング調査はやっているんですか。
指導課長	子どもに対するものはこの1月にあります。それから教員は10校程度やりたいと言つてくれた学校を選んで、大学と連携した既存の調査でやってみて、その感触で来年どう広げるかですね。
区長	<p>その結果とかを見つつですかね。</p> <p>最後におっしゃっていた、DXと官民連携と人材育成については、DXと官民連携はおそらく区長部局と連携するのが一義的には大事なのかな。DXを少し強化し始めたのが区長部局のほうでも最近ではあるので、そこをもうちょっと連携して、官民連携は区長部局にあるので、そこがもっと教育委員会と連携するのは全然あり。今、企業さんとかいろいろ連携協定とか結んでいて、結構教育をやりたいとおっしゃるパターンが多いので、教育で絡みたいみたいな企業さんとか、そこがうまく繋がればいいのかなと思います。</p>
濱松委員	現場を見ると、校長が頑張って、自分たちで取つてきましたって。バラツキが出るんですね。
稻垣委員	校長、副校長、あとは地域コーディネーターさんのやる気とか人脈とかの差で、結構学校の差が出る。
区長	それがうまく紹介できたりすれば、そういうパターンもありますよね。学校から紹介して、打診して、校長会ではかってもらって、やりたい学校ありますか、みたいなことをやってもらっている場合もある。
教育長	今の課題の一つは、それがきちんとリスト化されていないので、課題があった時にこういう人が欲しいなってなった時に、個別に当たるみたいになっている。そこは整理したいところですね。
濱松委員	あと部活動の外部化。やりたいっていう先生はそうなんんですけど、そうじゃない人をどうするか。
区長	非常に難しい。正直なところ、コストばかりかかっちゃっている部分もある。どこまでどうしていこうかみたいな、元々国が想定していたのは、地域の人たち、地元の地場のコーチとか監督とかやっている人たちに見てもらうというのが前提だと思うんですけど、どうしても株式会社に、もちろんちゃんとやっていただいていると認識しつつ、そのコストが永遠とかかってきてしまうのが、もうちょっとうまくできないのかなっていうのは正直、課題ではあります。大事だとは思いつつも、そのやり方とか、国からお金が欲しいとかありますよね。進めるのは大事だと思っていて。必要なところはやっていくべきだと思います。
稻垣委員	地域部活よりも、子どもたちは講師の人が学校に来て教えてくれるほうの外部のものを求めている感じはある。学校が終わった後に学校の仲間と部活をやるということなのかなと。どつかにして行って、地域部活動ではなくて、コーチが来るというような感じがいいと思うんですけど。
区長	そういう人が必ずしもいないという問題もありますよね、適切な人が。

濱松委員	人材バンクみたいなものを渋谷区でやっていますけど、そこをポイッとやっていかないと。人がいない、人がいないというのは、そこは学校の努力や事務局の努力が必要。
教育長	人材一覧みたいな話、スポーツ推進課とはどうなっていますか。
指導課長	スポーツ推進課としては、「部活動」という言葉を使ってしまうと、学校の教員が顧問を務めるレベルの質が要求されてしまうと思っているので、それがハードルになっているんですけど、地域にはスポーツをやっている団体や、文化的活動をそれぞれ楽しんでいる団体があるので、そういうところで子どもたちの参加が可能だというような団体のリストっていうのは、こちらで他部課と連携して用意して学校に提供していこうと思っていますけど、これが何人ぐらいで、何歳ぐらいの人たちがどんな頻度でどんなふうに活動しているかっていうぐらいまで詳しくリスト化しない限りは、子どもたちがじゃあ行ってみようとはならないかなということで、なかなか進んでいないところです。
区長	スポーツ推進課と話してみないとわからないんですけど、団体の人たちが学校へ教えに行くということをやりたいと思う可能性というのはあるんでしょうか。
指導課長	一部の方は言ってくださっている方がいますけども、なかなか難しい部分があります。何人かが行けるよって言っている地区もあれば、ある地区からはちょっと全然そういう人が出てこないよっていうところで、部活動の指導っていうふうなネーミングになると、尻込みされてしまうということはあります。でも子どもたちが一緒に来てやろう、おいでおいで、一緒にやろうっていう団体であれば、可能性が増えます。
区長室長	では最後になります。吉原委員、よろしくお願ひいたします。
吉原委員	私は小児科医としての立場から思っていることを話させていただきます。小学校入学のスタートラインを同じにしてあげたい。その段階で家庭の状況、色々な状況で、様々なお子さんが混在した状態で1年生がスタートしますので、そのレベルをもうちょっと揃えられないか。そこには特別支援のお子さんが入っていたり、うまく療育に従って良いスタートを切れるお子さんもいますし、保育者によっては全く気付かない、気付かないフリをして学校に入っていく、そのへんをもう少し、例えば幼稚園の人事は教育委員会の仕事ではないのかもしれないんですけど、もうちょっと教育のレベル、学校に上がる前にスタートラインをどう揃えるかを考えていきたい。5歳児健診がトライアルで10月から始まります。そこに見過ごされている5歳児、発達障害の5歳児を見つけて、保健所に来てもらわなくちゃいけない。ですから、来ない人には支援がいかない。スタートの段階で親御さんの理解レベルですね、そこが随分違っちゃう。そこをもうちょっと介入してあげると、小学校での色々な問題も和らぐのかなと、今はそのようなことを考えています。
教育長	今、学校では、スタートカリキュラムを1年生の最初にやっているが、教員が自分の学校に来る予定の子どもたちを保育園・幼稚園に行って観察するところまではできていません。情報交換はしていますが。そこを教員も忙しいからどこまでやるかというはあるが、もう少しうまくできればいいと思います。
区長	先生に対しては支援員の方がフォローしていくというのはあると思うが、先生も変わっちゃう可能性があるじゃないですか。
指導課長	私がいた学校のやり方ですが、3月ぐらいになると、どこの園から、何人来るという情報が学校に集まりますので、そこに教員が何年生を持っているかということに関わらず、何々園はあなたがというように割り当てて、園に行かせて、子どもがいない時間ですけど、そこで情報交換をして、こういう支援が必要です、こういう親御さんですという情報を取ってきて、それをコーディネーターや養護教諭が集約して、それを学級編成の情報に落とし込む。そういうことがあります。
教育長	同じようなことは品川区でもやっているが、子どもを見るというところまではいっていません。
指導課長	指導の時間と被っていますのでなかなか難しいというのがあります。
吉原委員	以前に教育長が保育課にいらした時の、ネウボラという産まれた時から大人になるまでを1人の人が見守る制度。そういうものが存在してもいいのかなと。
教育長	本当はそういう形でマイ保健師みたいな人が15歳までずっと見られるというのが理想

	なんですけど。
区長	今、0歳児までは同じ人が見るということはやっているんですけど、そこから先は必ずしも同じ人が見ているわけではない。そして実際、その仕組みを作るのは非常に難しいので、もう少し違うやり方でできるといいんですけど。何かあった時や、何かなくても、少し困った時にそれを改善していかなければというところですよね、少なくとも就学前まで。 毎回、様々課題になるんですけど、何かできないかなというのは考え続けていかなくちゃいけない。
濱松委員	先ほどのスポーツのところもそうですし、地域のところも連携してくる部分というのが出てきますので、縦と横の話。連携という意味では会社で働いていても部署が違ったりしたら、最後はトップがやらんかいと言って、やるというのがありますから、全部トップにすると森澤さんは大変なんですけど、やっぱり総合教育会議はそういうもので、縦と横の連携がもう少し欲しい。
区長	さっきの放課後のところで、子ども未来部との連携が大事ですし、DXや官民連携はもうちょっとできる部分がある。スポーツ推進課にもう少し地域と繋げられないかというところ。スポーツの団体の方々に地域で部活動を教えることについてどう思いますか、というようなことを逆にスポーツ推進課のほうで考えるというのも1つかなと思います。
濱松委員	そして、無償化の次に支援になると思うんですよ、私も教職員のアップデートやウェルビーイングと言っているので。そうすると、時間が減ったよね、要は教育に集中できるように、授業に集中できるようになったよねって見られた時に、それってどう測れますか、税金を払って意味ありましたっけ、となる可能性があると思っているんですよ。なので、360度評価などで現在とその投資した後、やっぱり質が変わっていったじゃんとか、良い意味で満足度高まったじゃんというのは、認識しておいたほうがいいと思います。 あと、大阪府高槻市の話ですぐできるんじゃないかというのが2つあって、1つがさっきも言ったんですけど、外に出て勉強しましよう、要はリーダーの候補やリーダーの人はどんどん大学院などに行って勉強しましよう的なものはいいんですけど、やっぱりなかなか現実は難しい。例えば学校の研修予算について、高槻市では1校10万円しかなかつた。つまり、講師を1人呼んだら終わり、あるいは2人呼んだら終わり。学ぶ機会も何も、部活動もその他も大変な中ですが、研修予算を5倍から10倍にしたって聞いています。それって50万から100万円にするぐらいなので、外のことも学べるみたいなやり方というのはあるんじゃないかなと。すみません、品川区の天井を知らないので、例えばそういうやり方があるのではないかと。 2つ目は、今でもやっていると思うんですけど、学び合える文化を作ったほうがいいんじゃないかと。校長や副校長がカリキュラムなどを考えて、今回の12月19日に伊藤学園で研究発表がありますけど、これを日常的に実施すればどうかと。つまり、この授業の時にはこの先生のところに見に行けるなど、そのカリキュラムを考えて、そうやって学び合って、じゃあどうだった?というピアコーチングやピアメンタリングなどを日常的にやるというやり方は1つあるんじゃないかなと思っています。そうすると、お金がかからないカリキュラムと、あとは外部化を進めるのを同時にやれば、ちょっと現場寄りで、現場で頑張ってくれというのありますけど、いいのではないかと思います。
区長室長	協議というのはここで区切らせていただいて、次回の総合教育会議に向けてですが、予定している講演会の内容に関連しているところでございますけれども、教育委員会事務局から説明させていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。
教育総合支援センター長	ではスライドの資料を用意させていただきましたので、ご覧いただければと思います。時間も限られていますので、コンパクトにまとめたいと思います。 区が目指す今後の学校支援についてという大きなテーマの中で3つ題目があります。主体的に行動する子どもの育成、自由進度学習、不登校支援というこの3つですが、まず、主体的に行動する子どもの育成というところで、3枚目のスライドなんですが、現状と課題という形で書かせていただいています。主体的・対話的で深い学び、それから

	<p>教員研修、ICT活用の課題、新しい評価方法の必要性、体験活動と地域連携の重要性、今日、皆さんにご協議いただいたようなことが書かれているかなと思います。</p> <p>4ページ目に今、区でこういったことを行っていますという事例と方向性という形で4点挙げていますが、1つはウェルビーイング教育とレジリエンスの育成です。それからICT活用と地域連携、これも大事だと思っています。それから、先ほども発達障害のお子さんのこととか話題になりましたが、ダイバーシティとインクルージョン、これについても進めていく必要があると。あともう1点は市民科を中心とした探究的な学びのモデルということで、こういったものを今後さらに進めていく必要があるものとして挙げています。</p> <p>その中でも自由進度学習、次のページからになりますけれども、なかなか聞き慣れない言葉ではあるんですが、子どもが多様化している中で、一律に椅子に座って、机に向かって、前を向いて、黒板を見て、先生の話を聞いて、ノートに書き写すというような授業スタイルは、これから先は通用しなくなっていくだろうということで、個別最適な学びと協働的な学びを推進する1つの手法です。よく自由進度学習の前に単元内というワードをつけて、算数や国語や社会のその1つの単元の中でゴールは定めて、学び方が自由というような取り組みがあり、全国で進み始めています。</p> <p>次のページに、品川学園では今年度すでに教育課程の中に取り入れて、5年生と6年生の算数を中心に計画を立ててやっています。ミライシードというタブレット端末の中のドリルで学習する子もいれば、ベーシックテストの棚とありますけれども、ここで紙の教材を使って勉強する子もいれば、もうちょっと難しい問題をやりたい子は、教師がレベルアップ問題を出すよみたいな形で先生に直接教えてもらう、自由に自分で選んで、勉強方法も選んで、わからないところは自分で調べるもよし、友達と学ぶもよしというようなことを試行的に行ってています。</p> <p>次のページは鮫浜小学校の取り組みですけれども、6年生の社会科や理科で昨年度取り組んで、今年度は3年生の算数でも実践をしています。こちらも単元内で取り入れているもので、大きなテーマを与えて、学び方は自由で調べ方も自由ということで進めています。右のロイロノートを活用した学習計画表というのは、コマ数が限られているので、その中でどういうふうに学習を進めていくかということを自分で計画を立てて、自分で学んでいくというようなものとなります。</p> <p>次のページは、自由進度学習に必要な方向性ということで4点挙げさせていただいています。</p> <p>最後にもう1点、不登校支援で次のページからになります。不登校児童・生徒数はこの10年で伸びているということで先日の教育委員会でも報告をしたところです。ただ、令和5年度と6年度の不登校児童数を見ると、横ばいにはなってきていて、高止まりになっているのか、中学生のほうは多少人数が減っているというようなところも見られています。どういう取り組みをこれまでしてきたかというのが、13枚目、14枚目のスライドですけれども、1つはマイスクールを西大井に昨年度1校増やしました。それから、隣の校内別室指導、これが全校で設置ができましたので、これがかなり効いているんじゃないかというふうには見えています。不登校にならないで、ここで止まっている子もあります。ここで休んでもまた教室に戻る子もいれば、別室で長期間過ごす子もいるということで1つの学びの場になっています。</p> <p>次のページですけれども、家から出られなくなってしまうお子さんもいるので、仮想空間、バーチャル空間も用意しています。それから、ポータルサイトは子どもへの直接の支援ではないですけれども、保護者支援がメインですが、子どもが学校へ行きたくないと言ったらどうすればいい、というところの発信であったりとか、あとは今年からになりますが、フリースクールを選んだ家庭への支援ということで、利用料の上限2万円の助成を東京都の助成に上乗せで、区でも行っています。</p> <p>支援としては以上となりますが、次回お話を伺えるということで情報提供です。</p>
区長室長	ありがとうございます。本日は情報提供ということで、説明で留めさせていただきたいと思います。次回の総合教育会議は12月23日を予定しております、講師の方にただ今の内容に関連した講演を行っていただくという予定になっています。そこで先ほどの

	ご説明内容も踏まえまして、意見交換できればと思っておりますのでよろしくお願ひします。 それでは次第のその他になりますが、全体を通して何かござりますでしょうか。
濱松委員	1つだけすみません。業務の線引き問題。最近、都でもニュースになって、あれも品川区こそ最初にできたのではないかと、別に最初にやることが本質ではないんですけど、これについてどう思われていますか。
稻垣委員	例えば公園でトラブルがあっても学校は対応しませんというような話です。
濱松委員	クレーム対応で教員が2時間ぐらいずっと付き合わなきゃいけない。その対応を、次HEARTSが、その次は副校長が対応することに結局なって、という線引きを都が分けますという話です。このあたりをどう考えていますか。
区長	そこは都の指針に従う部分もありますが、弁護士も含め、切り離していくことが大事かなと思っています。
区長室長	ありがとうございました。 それでは最後、区長から一言お願ひいたします。
区長	どうもありがとうございます。皆様、違う角度からご意見いただいて、これから改めて考えていかないといけないなと思いました。このような形の総合教育会議を年に何回かできればいいのかなと思います。また次回、よろしくお願ひします。
区長室長	それではこれで令和7年度第2回総合教育会議を終了したいと思います。 どうもありがとうございました。

—— 了 ——